

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和5年度  
意見交換会(第2回)

岩手県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2023年8月21日

## ● 第1回意見交換会の振り返り

- 第1回意見交換会では、以下の論点で意見交換を実施

### 【論点1】今年度の取組テーマ

- ✓ 今年度の取組テーマを「**沿岸と内陸を繋ぐ**」とすることで合意
- ✓ 事務局側が示した「課題解決・機会を活かすために考えられる視点」について、以下のような意見が得られた
  - ・若者という魅力的な力と沿岸の魅力的な事業者、NPO等とをつなぐこと
  - ・若者から出たアイデアの発表を通じて、現地の事業者のアイデアにつながるような機会を作ること
  - ・現地を訪れる際には、観光施設だけではなく、体験型のコンテンツも提供し、濃密な思い出をつくること
  - ・関係人口を増やし、人を呼び込めるような企画とすること

### 【論点2】今年度の取組の具体案

- ✓ 事務局の企画案2「**岩手県内の学生・若者が考える『今の復興の姿を知る、三陸沿岸学び旅・交流プログラム』**」をベースとして、企画の検討を進めることで合意
- ✓ 企画の検討に当たって、以下のような意見が得られた
  - ・沿岸部に興味関心のある若者に公募・個別に声掛けし、沿岸部で協力いただける事業者（昨年度の関係事業者など）と交流しながらプログラムを作ってはどうか
  - ・ツアーに参加してもらった後の若者に次につながるアイデアをいただくことはできるのではないかと
  - ・学生・若者の学業・本業に負担をかけないように、協議会として座組をしっかりと行う必要がある
  - ・参加学生にメリットが必要。沿岸部に1回行けること、沿岸部の事業者と繋がれること、沿岸部について知れることがメリットになりうる



事務局において、企画の全体像を次ページのように整理、個別調整を実施

# ● 今年度の企画の全体像

タイトル	企画から訪問まで、「行きたい!」「会いたい!」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る“ <b>三陸沿岸学び旅・交流プログラム</b> ”	
企画趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災から12年が経過する中、震災後、復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上により、内陸部から沿岸部へと訪れるための時間は減少したものの、震災後にあった内陸部から沿岸部への支援や交流が徐々に減少している。また、震災から12年間経過する中での、特に若年層においては震災の記憶が風化してきている状況にある。</li> <li>・こうした状況を踏まえ、<b>今一度、岩手県の内陸部の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただく</b>ため、学生・若者自身に、三陸沿岸の事業者とも協議しながら、<b>オリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただき、実際に三陸沿岸部に訪問いただく取組</b>を実施する。</li> </ul>	
参加対象者	岩手県内の若者（大学生・社会人） <b>15名程度</b>	
企画内容	事前のワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者にオリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただく<b>ワークショップを2回</b>開催</li> <li>開催日：<b>9/16（土）、10/14（土）</b> いずれも<b>13時～15時</b></li> <li>場所：<b>若者カフェ（盛岡市内）</b></li> </ul>
		<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>○第1回ワークショップ（9/16（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画概要の説明</li> <li>・現地コーディネーターから各エリアの魅力紹介 久慈エリア：久慈市観光物産協会 貫牛氏 宮古エリア：浄土日和 佐々木氏 陸前高田エリア：トナリノ 山本氏 ※貫牛氏、山本氏は予定</li> <li>・エリア毎のチーム分け</li> <li>・訪問希望の現地事業者の抽出</li> <li>・ツアー行程案のディスカッション</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>○第2回ワークショップ（10/14（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より第1回WSを受けたツアー行程案の提示</li> <li>・訪問先の事業者と訪問先で聞きたい話・体験したいことなどに関するオンラインMTG</li> </ul> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>久慈市：NANAMARUNI COFFEE NANAMARUNI COFFEE 宮古市：みやっこハウス NPO法人みやっこベース 陸前高田市：コワーキングスペースやどかり 一般社団法人トナリノ</p> </div>
<p>○第1回ワークショップ（9/16（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画概要の説明</li> <li>・現地コーディネーターから各エリアの魅力紹介 久慈エリア：久慈市観光物産協会 貫牛氏 宮古エリア：浄土日和 佐々木氏 陸前高田エリア：トナリノ 山本氏 ※貫牛氏、山本氏は予定</li> <li>・エリア毎のチーム分け</li> <li>・訪問希望の現地事業者の抽出</li> <li>・ツアー行程案のディスカッション</li> </ul>	<p>○第2回ワークショップ（10/14（土））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より第1回WSを受けたツアー行程案の提示</li> <li>・訪問先の事業者と訪問先で聞きたい話・体験したいことなどに関するオンラインMTG</li> </ul>	
ツアー当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>11/25（土）・26（日）</b>に1泊2日のオリジナルの三陸沿岸ツアーを開催</li> <li>・各ツアーの<b>最終訪問先は沿岸各地の若者カフェの連携拠点</b>（久慈、宮古、陸前高田）に設定</li> <li>・行程の最後に各地からのオンラインで、参加者・現地事業者・各地の観光協会、旅行会社、行政機関を交えて2時間ほどの<b>全体の振り返りMTG</b>を開催</li> </ul> <p>※ 学生の費用負担はなし ※ 移動は、グループ毎に三陸鉄道やBRTなどの公共交通機関・タクシー・レンタサイクル等を活用</p>	

# ● 第1回ワークショップ開催に向けた準備状況

## (1) 参加者募集

- 右の通り参加者募集用チラシを作成。
- 本日の意見交換会での企画案確定後に、協議会HPや県のHP、若者カフェ等での募集を速やかに開始。

震災から12年が経過し、震災の記憶と教訓を次の世代に伝えることがますます重要となるなか、復興庁が事務局を務める「新しい東北」官民連携推進協議会では、若手県での取組として、若手県内の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただくを目的とした三陸沿岸を訪れる視察ツアー・交流プログラムを実施します。



### 参加募集!

企画から訪問まで、「行きたい!」「会いたい!」を実現する  
三陸沿岸を訪れ復興の姿を知る  
三陸沿岸学び旅・交流プログラム

**企画概要**

本プログラムでは、若手県内の学生・若者自身に、三陸沿岸の事業者とも相談いただきながら、オリジナルの三陸沿岸ツアーを考案いただき、実際に1泊2日の行程で三陸沿岸部に訪問していただく予定です。自身で関心のあるスポットへ訪問するツアーを企画し、三陸沿岸の復興の姿を知る貴重な機会となればと考えています。ぜひご応募のほどよろしくお願いいたします。

- 1. 参加対象者**  
若手県内の若者（大学生・社会人）15名程度
- 2. 実施内容**（2つの内容へのご参加が必須となります）
  - ① 事前ワークショップ**
    - ・開催日：9月16日（土）、10月14日（土）（予定）
    - ・開催場所：いわて若者カフェ（若手県盛岡市内丸11-2若手県公会堂地下）
    - ・ワークショップスケジュール
      - ＜第1回＞9月16日（土）13時～15時  
企画概要の説明／対象エリア別にチーム分け／訪問したい事業者の検討／大まかなツアー行程考案
      - ＜第2回＞10月14日（土）13時～15時  
ツアー行程案の検討・確定
    - ※ 本ワークショップにおいて、ツアー・プログラムの具体的な内容を検討していただきます。
    - ※ 第1回と第2回ワークショップの間に、事務局のサポートのもと、参加いただいた若者と訪問先の事業者等との間で、個別にオンライン等でプログラム内容の調整等をしていただくことも想定しています。
    - ※ 企画内容については、今後の検討によって変更があり得ます。
  - ② ツアー・プログラム**
    - ・開催日：11月25日（土）・26日（日）（1泊2日）
    - ・開催エリア：若手県久慈市、若手県宮古市、若手県陸前高田市
    - ※ 参加者の皆様には、3グループほどに分かれて各エリアを巡っていただく予定です。
    - ※ 行程の最後には、各エリアの若者カフェの連携拠点に集いいただき、参加者、現地事業者、自治体及び観光関係団体との意見交換を行う予定です。
    - ※ ツアー・プログラム本番の交通費・宿泊費・プログラム体験費については、事務局が負担します。

**○ 応募方法**

- 下記URL又はQRコードよりアクセスし、必要事項を明記の上ご応募ください。  
<https://questant.jp/q/VEQCXZ8T>



**○ 応募締め切り 9月8日（金）中**

**○ お問合せ先** 「新しい東北」官民連携推進協議会事務局  
Mail : [newtohoku@tourism.jp](mailto:newtohoku@tourism.jp)  
Tel : 03-6260-1222（受付時間：9:30～17:30 土日祝日除く）

※本企画は「新しい東北」官民連携推進協議会（若手県、若手大学、若手銀行、いわて連携復興センター及び復興庁）が企画するものです。協議会については下記URLをご参照下さい。

- 復興庁HP「新しい東北」<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-11/creationnewtohoku.html>
- 「新しい東北」官民連携推進協議会HP <https://www.newtohoku.org/>



# ● 第1回ワークショップ開催に向けた準備状況

## (2) 当日会議資料（現地訪問先・事業者リスト）の作成

- 第1回WSにおいて、若者に訪問希望の現地事業者を抽出、ツアー行程案をディスカッションいただくに当たって、各エリアでの現地訪問先・事業者候補のリストを以下のように作成中。  
(別添資料：リスト及び三陸DMOセンターより提供いただいた資料)
- リストの作成については、浄土日和 佐々木氏を中心に、各エリアの現地コーディネーターとも連携して作業を進めているところ。本資料は8月31日に完成予定。

### ○立ち寄りスポット資料

#### ● 2. 宮古・釜石エリア：立ち寄り箇所候補

#### 2- (1) 田老の学ぶ防災ガイド



【事業者・団体名】  
たろう潮里ステーション内 学ぶ防災ガイド  
〒027-0307 岩手県宮古市田老2丁目5-1 Tel:0193-77-3305

【実施場所】  
宮古市田老地区

【取組内容】  
**現地だからこそ伝わることもある**  
東日本大震災により甚大な被害が出た田老地区の当時の状況を伝えることで、お客様に防災意識を高めていただくことを目的としています。  
学ぶ防災ガイドは1時間コースと2時間コースがあります。防潮堤からの案内と、津波遺構「たろう観光ホテル」に移動してマスコミ未公開の映像を上映するプログラムです。



**津波遺構 たろう観光ホテル**  
損壊を受けた建物の取り壊しが進む中、保存された貴重な建物。  
「学ぶ防災ガイド」に参加することで館内が見学でき、館内では震災当日に同ホテルで撮影された津波の映像も視聴することができます。

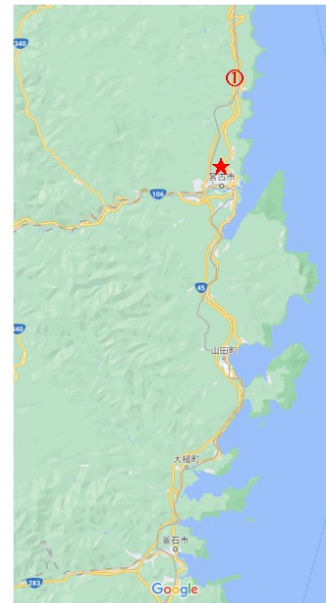
【体験内容】  
○通常コース：30分～60分  
料金：4千円防潮堤での説明、津波ビデオ上映  
○震災学習・防災エコツアー体験コース：90分～120分  
料金：1万円

※防潮堤での説明、実際に避難道を歩く、津波ビデオ上映津波遺構の「たろう観光ホテル」の見学は予約が必要です。

2

### ○全体マップ

#### ● 2. 宮古・釜石エリア：全体マップ



★ みやっこハウス（2日目13時 集合場所）  
〒027-0084 岩手県宮古市末広町8-24

- ① 田老学ぶ防災ガイド：〒027-0307 岩手県宮古市田老2丁目5-1
- ② ...

2

# ● 確認・相談事項

## 確認・相談事項 1

- 改めて**本年度の企画案についての質問・意見**はあるか

## 確認・相談事項 2

- 会議後に若者の参加者の募集を開始する
- 副代表団体から声掛けできる案内先はないか**

- 参加者募集チラシについては、PDFデータを送付するほか希望に応じて紙媒体資料を送付
- 事務局側で調整済みの周知先：協議会HP・メーリングリストでの周知、若者カフェでの設置、いわて若者ポータルサイト関連SNSによる周知
- 広く募集を募るため、副代表団体の皆様からも改めて周知をお願いしたい



## 確認・相談事項 3

- 立ち寄りスポットは8月31日の完成を目指している
- 追加すべき訪問先・事業者はないか**

➢ 副代表団体の皆様から、追加すべき訪問先・事業者について、改めて情報提供をお願いしたい



## ● 確認・相談事項

### 確認・相談事項 4

- 今回の企画について、前回の意見交換会において、「**ツアー参加後の若者に次につながるアイデアをいただく**」「**現地の事業者のアイデアにつながるような機会を作る**」といった意見をいただいていたところ。
- このため、**行程の最後には**、参加者・現地事業者・各地の観光協会、旅行会社、行政機関を交えた形での**振り返りミーティングを開催**する予定
- 振り返りミーティングのプログラムについて、事務局案として以下の通りたたき台を作成しているため、ご意見をいただきたい。

### ○ 振り返りMTG趣旨

- ① 若者目線で得られた岩手沿岸部の魅力を現地事業者や各地の観光協会・観光コーディネータに**直接フィードバックする**とともに、② 関係人口・交流人口の創出に向け、現地事業者が連携した地域の魅力発信やつながりを持った観光ルート設計の重要性を再認識する

### ○ 参加者・実施体制等

- 沿岸部の若者カフェの連携拠点（久慈、宮古、陸前高田）を**会場**とし、**オンラインでのMTG**
- 前半は、3連携拠点から参加している**【若者】【現地コーディネーター】**による**ツアーの振り返り**
- 後半は、**【観光・関係人口づくり関係の専門家・講師】**に登壇いただき、ディスカッションを実施

### ○ タイムスケジュール案

- 企画概要の説明 <事務局> 5min
- ツアー行程の感想等の発表 <若者> 5min×3グループ  
<現地コーディネーター> 5min×3グループ
- プレゼンテーション <講師・専門家> 20min  
テーマ案：観光を介した関係人口づくり/地域の魅力発信に効果的な手法 など
- オンラインパネルディスカッション <講師・専門家+現地コーディネーター> 60min

# 參考資料



## ● 4. 今年度の取組テーマについて

### 論点 1

今年度については、「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことを取組テーマとし、以下のような視点をもって企画を検討してはどうか。このほか、今年度の実践の場で取り組むべき課題・取り入れるべき視点は何か。

#### これまでの取組等から 見えてきた課題

- ・内陸－沿岸間の物理的距離
- ・震災から12年間経過する中での、内陸－沿岸間の関係の希薄化(心理的距離)
- ・若者や女性の県外流出・県内移動(沿岸部→内陸部)
- ・震災から12年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化
- ・地域のプレイヤー不足
- ・県全体のプレイヤー・観光資源が一元化されて見える形になっていない
- ・地域プレイヤー間の連携不足

#### 機会

- ・復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴う観光需要の復調
- ・盛岡の観光需要の増大(NYタイムズ 2023年に行くべき52か所への選出、WBCでの岩手県出身選手の活躍など)

#### 課題解決・機会を活かすために 考えられる視点

- ・「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことを取組テーマとした企画の検討
- ・若者や女性を巻き込んだ企画の検討
- ・取組を通じた、地域のプレイヤー・観光資源の洗い出し
- ・一過性ではない、今後の継続的な地域のプレイヤー間の連携の創出につながるような企画の検討
- ・内陸の方を沿岸部に実際に連れてくるような企画の検討
- ・今後、国内・海外から岩手内陸部に訪れた方にもアプローチできるような発展性・継続性

## ● 5. 今年度の取組内容について

参考:令和5年5月18日  
第1回意見交換会 資料1

### 論点2

粗々な取組内容を検討・決定するに当たり、以下の点についてどう考えるか。

- ① **プログラムのターゲット・沿岸部の事業者の関わり方**をどのように想定し、関わってもらうのか。  
※ 「沿岸と内陸」をつなぐ企画を考えるとした場合、**ターゲットとなる内陸の参加者**の明確化が必要。また、**事業や体験を提供する沿岸部のプレイヤーの関わり方**の整理が必要。
- ② ①のプレイヤーに応じて、**どのようなプログラム**で交流を生み出すのか。  
※ 事業の継続性・実効性を意識すると、**県内ですでに行われている関係人口創出に向けた取組**と何らかの連携を行うことが効果的か。

### ① プログラムのターゲット・沿岸部の事業者

<b>内陸</b>	<p>&lt;検討の軸&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸部へのもともとの関心の程度（関心が薄い方を呼び込むためには誘引性の高い企画が必要）</li> <li>・ プログラムへの関わり方（単なる参加とするか、より積極的な関与を求めるか）</li> <li>・ より積極的な関与を求める場合は、その拠点（例えば、大学、若者カフェなど）</li> </ul> <p>&lt;想定されるターゲット&gt;</p> <p>岩手大学の学生を始めとした県内の大学生、若手の社会人、イベント自体に関心ある方を広く公募 等</p>
<b>沿岸</b>	<p>&lt;検討の軸&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸部の事業者の関与の程度（主体的にプログラムを検討・企画するのか）</li> <li>・ 内陸の参加者との交流の程度（プログラム当日のみの交流とするか、準備段階からの交流とするか）</li> <li>・ 沿岸部の事業者間をどう連携させるか（事業者が参加するプラットフォームの作成、地域コーディネーターや観光協会等による仲介）</li> </ul> <p>&lt;想定されるプレイヤー&gt;</p> <p>観光協会、事業者（地域のNPO・一般社団法人、ホテル・旅館等）、観光コーディネーター、県、市町村 等</p>

### ② プログラムの内容

旅行、視察、ワークショップ、インターンシップ、フォーラム、研修、スポーツイベントなど

## ● 5. 今年度の取組内容について

参考:令和5年5月18日  
第1回意見交換会 資料1

### ■ 事務局案（議論のたたき台）

<b>(案1) 「内陸－沿岸部」の交流促進に関するスポーツイベントの企画・プラットフォームの創出</b>	
<b>主なターゲット層：岩手沿岸部への関心の程度に関わらず、スポーツイベントに興味のある人、その家族・友人</b> <b>繋がり・連携を生み出すプレイヤー：内陸・沿岸部の観光協会、事業者（ホテル・旅館、道の駅、地域のNPO・一般社団法人等） 同士、県、市町村</b>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間団体が企画する盛岡－宮古間をつなぐランニングイベント・サイクリングイベントの企画を支援（盛岡－宮古を移動すること自体がイベントに）</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸部に関心が薄い層も含めて、沿岸部を知ってもらう</li> <li>メディアへの発信を通じた広報効果</li> <li>地域内外から参加者とその家族・友人が訪れることによる観光消費効果</li> <li>イベント実施を通じた地域プレイヤー間の連携・協働の土台作り</li> </ul>
協議会の役割（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「内陸－沿岸部」の交流促進等に関するフォーラムの開催</li> <li>民間団体単独では実施が困難な調整等を担う、官民連携のプラットフォームづくり</li> <li>民間団体が企画するイベント開催（現実的には、R7年夏頃か。）に向けたロードマップの策定</li> <li>イベント開催に向け、イベントの実施や協議会として行うサブイベントの企画</li> <li>イベントの周知・広報</li> </ul>

<b>(案2) 岩手県内の学生・若者が考える「今の復興の姿を知る、三陸沿岸学び旅・交流プログラム」</b>	
<b>主なターゲット層：岩手県内の学生・若者</b> <b>繋がり・連携を生み出すプレイヤー</b> <b>：学生・若者と沿岸部の事業者・観光協会、学生・若者同士、沿岸部の事業者（アクティビティ等の提供団体）・観光協会と観光コーディネーター</b>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県内の学生・若者に「今の復興の姿を知る、三陸沿岸学び旅・交流プログラム」を検討してもらう</li> <li>学生が検討する際には、机上での議論に加え、現地事業者とのオンライン・対面MTGも実施</li> <li>実践の場では、盛岡市内の学生や若者を募集し、10名規模のツアーを開催</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>内陸の学生・若者をターゲットとして、沿岸部を知ってもらう</li> <li>プログラムの策定を通じた地域プレイヤー間の連携・協働の土台作り</li> <li>学生・若者が行程を検討するに当たっての材料として、地域の観光資源等をリストアップ</li> </ul>
協議会の役割（案）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の観光資源等のリストアップ、学生・若者に対する情報提供</li> <li>実践の場の参加者募集、情報発信、現地手配、運営補助等</li> <li>参加者に対するアンケート収集と分析内容についての、関与した事業者へのフィードバック</li> <li>将来的な副代表団体の関わり方の検討</li> </ul>